

哀 悼

校庭を舞うトンボがいつの間にか姿を消した

あんなに自由に校庭を飛び回っていたのに……

赤とんぼが楽しそうに、体育の授業をしている生徒を追いかけている

生徒もトンボを笑顔で追いかける

秋の深まりとともに、一匹、一匹トンボは風に乗って校庭を離れていく

最後まで生徒と遊んでいたトンボが

私の前で羽をかすかに動かして静止している

トンボは、向かい風に乗って静止する

僅かに羽を動かして、静止する

風に流されないように、綿のように軽い体を大きな羽で調整して静止する

トンボの大きな眼に生徒の笑顔が映っている

大きな大きな複眼にたくさんの生徒の笑顔が映っている

「トンボさん、あなたから優しさをたくさんもらいました！」と心で話しかける

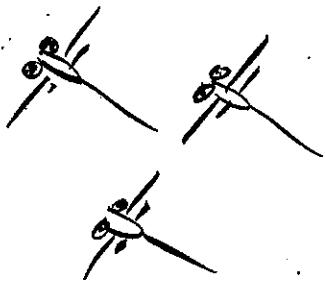
風が急に強く吹いて、静止していたトンボの体が傾いて、

真っ青な空に向かってトンボが高く飛び去った

トンボが青空の中に溶け込んでいく

澄みわたる大空をいつまでも見上げている僕がいる

「さよなら」は言わずに「ありがとう」と心に呟いて……



喜代治